

# 医療用麻薬のお話 ②

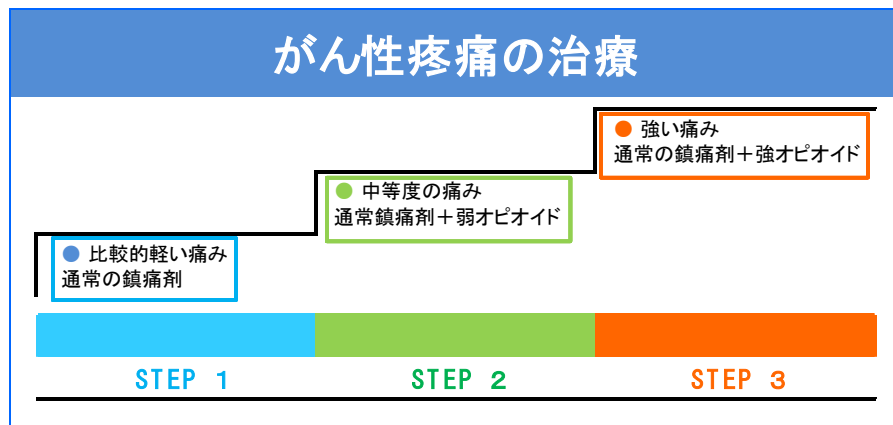
## ー モルヒネって怖い薬じゃないのですか？ ー

前回は、医療用麻薬について、総論的なお話をさせていただきました。  
今回は医療用麻薬と、その使い方について簡単に説明させていただきます。

医療用麻薬には弱い麻薬(弱オピオイド)と強い麻薬(強オピオイド)があります。  
がん性疼痛(とうつう)には、強オピオイドが主に使用されます。また、強オピオイドには内服薬だけでなく、貼付薬(貼り薬)、注射薬、坐薬など、いろいろな剤形の薬剤があります。

弱い麻薬(弱オピオイド)	強い麻薬(強オピオイド)
<ul style="list-style-type: none"><li>■ コデイン (咳止めなどに処方されることがあります)</li><li>■ ترامドール (一部歯痛や慢性腰痛などに処方されることがあります)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ モルヒネ</li><li>■ オキシコドン</li><li>■ フェンタニル</li><li>■ タペンタドール</li><li>■ メサドン など</li></ul>

下図は、がん性疼痛に対して通常行う治療のステップです。最初は普通の鎮痛剤から処方します。痛みが和らがない場合には、通常の鎮痛剤に加え弱オピオイドを追加します。それでも痛みが和らがない場合は、弱オピオイドを強オピオイドに変更します。その後は痛みの強さに応じて強オピオイドの量を増やしていきます。強オピオイドを使用している時でも、通常の鎮痛剤は併用します。併用することで、通常の鎮痛剤と医療用麻薬の両方の長所を生かすことができます。



(緩和研修会テキストより一部変更)



次に医療用麻薬の副作用について、説明させていただきます。

医療用麻薬もお薬なので、副作用があります。しかし正しい使い方をすれば、他の薬剤と比較しても、特に強い副作用や怖い副作用があるわけではないことを覚えておいてください。

麻薬の副作用	
便秘	便秘は医療用麻薬を使用している間は常に起こりうる副作用です。通常下剤を併用していただきます。
眠気	使用し始めや、増量した時に起こりますが、通常数日で消失します。しかし念のため、車の運転は控えていただいております。
吐き気やめまい	使用し始めや、増量した時に起こりますが、1～2週で消失することが多いです。制吐剤を併用していただきます。
呼吸抑制	腎臓の機能が弱い方や、急に大量に使用した際に起こることがあります。

上記が主な副作用です。いかがでしょうか？皆さんが予想していたより、普通のお薬だと思いませんか？繰り返しますが、正しい使い方をすれば、怖いお薬ではないのです。

また、通常の鎮痛剤は1日の投与量が限定されていますが、医療用麻薬は痛みが取れるまで増量することが可能です（もちろん急激な増量は危険ですが・・・）。

ただし医療用麻薬は、「麻薬及び向精神薬取締法」という法律が適応されるお薬ですので、他人に譲渡したり、勝手に捨ててしまったりすると罰せられることがありますので、ご注意ください。また、服用中は車の運転は控えていただいております。

まだ医療用麻薬が現在ほど普及していなかったころに、強い疼痛を伴う悪性中皮腫の患者さんに医療用麻薬が処方できず、とても辛い思いさせてしまった苦い経験があります。もし適切に医療用麻薬を使用していれば、もう少し苦痛を取って差し上げられたかと思い、非常に反省しております。

「痛み」を我慢することは、あなた自身にも、あなたのご家族にも良い影響を与えることは決してありません。鎮痛剤や医療用麻薬を適切に使用することにより、できるだけ快適な生活を送っていただけるよう願ってやみません。もし、がんによる痛みでお悩みの時は、遠慮なく当院の緩和外来にご相談ください。

【呼吸器外科診療部長・緩和ケアチーム 山部 克己】

